秋季総体大阪大会（１０/８・９　長居第二）RESULTS

１年女子リレー　咲くやこの花に敗れるも、

５２秒０５の大阪中学新記録樹立!!

大会初日１５時４５分。大勝負の時がやってきた。１年女子４×１００mR 決勝。もし、この種目で東雲が勝てば、昨年に続き２連覇、さらに今年度共通リレー、低学年リレーと併せて三冠を達成する快挙となる。

ところがきびしい現実もあった。地区大会では咲くやこの花と枚方山田が５２秒台の記録で走っている。対する東雲は地区大会での記録は５４秒０３。３位を確保するのもきびしい立場である。９月中旬の茨木市民で５３秒６８まで記録を伸ばしていたが、そのきびしさは変わらない。ジュニアオリンピック挑戦記録会でも１位が枚方山田で５３秒１７、咲くやこの花５３秒２０、東雲は５３秒９７で３番手のチームであった。

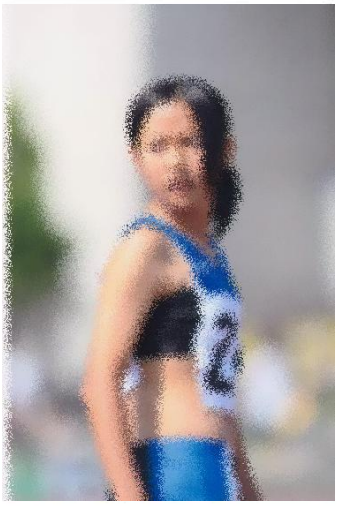
予選から咲くやこの花は絶好調で、大阪記録の５２秒２９を上回る５２秒２３の大阪中学記録をすでに更新していた。東雲も５２秒７０のチームベスト。ここに来て１秒近くも記録を更新したことになるのだ。大健闘である。

４レーンに東雲、５レーンに咲くやこの花、６レーンに枚方山田の３チーム。東雲としては、２走の山本祐莉でトップに立ち、３走の山元でそのリードを広げて、４走の棚江で何とか逃げ切りたい。

リレーは先頭でバトンを渡すほうがバトントラブルの確率が低くなるものだ。東雲が先頭に出る場面を作って、できれば咲くやこの花を慌てさせたい。残念ながら力の差は認めざるを得ない状況で、５２秒前半のタイムを出して負けたら仕方ないと思っていた。

号砲で８人の走者がきれいにスタートを切った。早くも咲くやの第１走者が前に出る。追うすぐ内側の谷田。走りは悪くない。２走の祐莉へのバトンパス。オーバーゾーン入り口ぎりぎりでバトンが渡ると祐莉はいつものようにバックストレートを力強く疾走した。わずかであるが、真っ先に３走の山元へバトンが渡る。思惑どおりである。３走の山元が外側のレーンを走る咲

くやこの花との差をつめていく。接戦である。４走の棚江にわずかに先にバトンが渡る。



　それでも咲くやこの花は慌てなかった。まもなく棚江をとらえると、そのままリードして咲くやこの花が１着でフィニッシュ。２着に東雲。速報の表示板を見て、アナウンサーが「５１秒５３！５１秒５３の素晴らしい大阪中学新記録が樹立されました。」場内も歓声とため息が入り混じる。表示板の数字が変わった。

　その数字を見てまた衝撃が走った。東雲も５２秒０５の大阪中学新記録を樹立したのである。振り返ると、１走の谷田と４走の棚江が抱き合いながら泣いていた。負けて悔しいのである。「咲くやに負けてしまったけど、こんな立派な負けはないよ。大阪中学新記録を出して負けたのだから仕方ない。」と話をしたが、２人は泣き止まなかった。「勝ちにこだわるその姿勢は良し。負けの悔しさを次なるエネルギーに変えていくならそれも良し。この土壇場で１秒６３も記録を短縮する彼女らの爆発的な走りに感動した。東雲のリレーの伝統はしっかり DNA として、彼女らの体にも染みついているのかもしれないな」と、心の中で思った。

　咲くやこの花の優勝記録（５１秒５３）の偉大さを噛みしめた。２年後に、咲くやこの花に勝って、全国切符を手にすることは並大抵ではない。近い将来、４８秒台対決で雌雄を決することになるのでしょう。さらに東雲の５２秒０５の記録を噛みしめてみた。東雲には、１２秒７７のベスト記録を持つ山本祐莉が絶対的なエースとして存在する。３走の山元佳保が１３秒７７で、１走の谷田は１４秒２台、４走の棚江は１４秒４台である。何度、机上で計算しても５２秒０５はありえない。ただ、今回の結果ではっきり言えることは、東雲１年女子リレーチームは祐莉のワンマンチームではなかったということである。他の３人がしっかりと地力をつけたからこそ、実現した大記録である。「始めはそんなに速くなくてもいい。夢を持って日々の練習に集中して取り組めば、必ず速くなり、夢は実現するのだ。」今まで自分でも繰り返してきた言葉であるが、彼女ら４人が、身を持ってこのことを教えてくれたのだ。彼女らに勇気をもらったと思い、感謝の気持ちでいっぱいになった。

共通女子リレー、夏のチャンピオンチームの意地！

４９秒台で激戦を制して、シーズン最後を締めくくる!!

夕闇迫る大会２日目１６時２０分。大会のファイナル種目は共通女子４×１００ｍリレーと共通男子４×１００ｍリレーの決勝だけとなった。秋風がやけに心地いい。夏の選手権と違って全国がかかっているわけでもなく、それでも総合優勝に向けて大事なレースとなることはわかっていたのだが、それ以上に３年生のリレーメンバー最後の勇姿をしっかり見届けてやりたいという思いが勝っていたので、必要以上にリラックスできたのだ。勝負事であるので何が起こるかわからないのだが、とにかく優勝するはずだという確信があった。予選から４９秒台で走っているのは東雲だけ。この１年数々の修羅場をくぐり抜けてきた経験は決してダテではないはずだ。

ピストルが鳴ると、いつものように１走の立石がぐんぐん前に出る。２走の萌もいつものように大きなストライドで疾走して、ややバトンが間延びしたものの確実に３走の萌やんにバトンが渡る。接戦の中でも、萌やんはピッチの利いた走りでカーブを駆け抜ける。４走の西尾にバトンが渡ると軽やかにストライドが伸びて西尾が真っ先にフィニッシュラインを駆け抜けた。

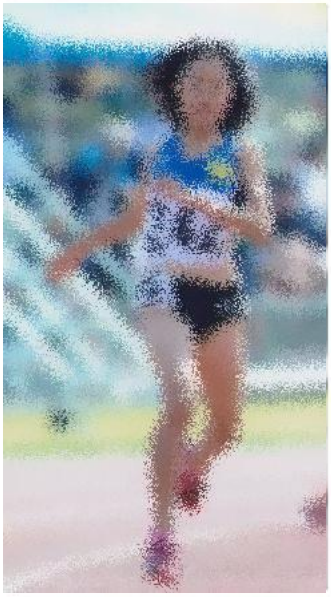
４９秒６８で優勝を決めた。２位に石切５０秒０１，３位には菫（すみれ）が入り５０秒０７。西陵が４位で５０秒５５、咲くやこの花が５０秒７６で５位、枚方長尾が５０秒９６で６位と続く。残念ながら、最後のレースで大阪中学新記録（４８秒８３）、大会記録（４９秒０３）更新はならなかったが、すがすがしいレースとなった。

表彰式では萌やんが真っ先にてっぺんに立った。心憎い萌の演出ではないか。笑顔の萌やん。喜びも苦しみも数々の試練を乗り越えて素晴らしいリレーチームができあがった。

史上稀に見る今年の女子リレーの激戦を思い浮かべた。４８秒８４のベスト記録を持つ東雲を筆頭に咲くやこの花が４９秒３３。西陵も菫も４９秒台のチームであった。ひと昔前は４９秒台と

言えば、全国優勝を狙える数字であった。ところが、今は４９秒台を出しても近畿大会に行けない時代となっていしまったのだ。全国出場を決めたときの涙、その全国大会で準決勝敗退となったときの涙、これまでに胸が締めつけられるような思いを何度したことでしょう。

表彰式が終わって、すぐに好敵手の石切中学の４人のメンバーがやってきた。「悔しいけど、東雲中に負けました。」と笑顔。シーズン前には「石切が一番強い！」という下馬評であったのだ。春のカーニバル、夏の選手権と東雲が勝ち、秋こそはリベンジしてやる思いで今回は走ったのだと言う。互いに勝った負けたの次元の話ではない。本気で全国大会を狙ったチームだけがわかる絆ではないか。たくさんの思いがつながってひとつの物語が完結したのかもしれない。



２０１２年の夢輝け！
ストーリーも今から楽しみにしている。